

ASSOCIA JOURNAL

March
2023

TAKE
FREE



VOL.06



Interview

アソシアを利用されている
方へのインタビュー



ハローワークを利用していたとき、担当の方からアソシアを紹介していただき、見学することになりました。施設がキレイなことや、ステップアップを目指せること、雰囲気心地良くて通所を決めました。元々は仕事をする気もなく、事業所に通う気もなかった自分が、今は1年以上も続けることができたのはスタッフさんたちの支えがあったからだと思います。また、自分自身の心の成長もあったかと思っています。白黒思考だったのが和らぎ、気持ちも少し楽になりました。仕事することへの気持ちも前向きになり始めています。生活習慣や精神面や体力面など、まだまだ自分にとっての課題もありますが、「時給」のある職場で働いて自立するという夢のために、今日も頑張って日々の作業に取り組んでいます。

協力：ファクトリー川西 利用
Sさん（26歳）

相談支援専門員って 何をする人？

キーワードは「繋がり」

あまり馴染みがないかもしれませんが実は地域の障がいのある方の相談窓口として日々駆け回っています。

私が所属するアソシア・ソーシャルサポート川西は、地域の障がいのある人の暮らしや、就労に関する相談、困り事や福祉サービス利用などに関する相談窓口の事業所として活動しています。在籍スタッフの多くは相談支援専門員の資格を有しており、福祉サービス利用の手続きを主として活動するスタッフと、生活や就労など福祉サービス以外の総合的な相談を担うスタッフで構成されています。人によっては、事業所まで足を運んでの相談が難しい方もおられますので、電話相談の他にも、自宅に伺ってお話をさせて貰う事もあります。相談内容の中では、私達だけでは解決が難しい事もありますが、人と

人と繋がっていただけるようにサポートさせて貰う事が私達の役割の一つでもあります。

例えば、就労に関する相談では、ハローワークや若者サポートステーションなど就労に関する相談機関の情報をお伝えしたり、必要な時には同行したりします。経済的な面に関する相談では、障害年金申請のサポートや社会保険労務士など専門職の方にお繋ぎするなど、ご本人と相談をしながら進めていきます。どんな事を、誰に、どのように相談したらいいのか、分からない中で日々悩んでいる方もおられるかと思います。そんな時に、解決に向けて伴走者となっていく存在が相談支援専門員だと感じています。地域によって、相談事業所の数や仕組みに違いはありますが、皆さんがお住まいの地域にも、身近に相談出来る事業所があるかもしれません。いきなり直接相談はしにくい、そう思い悩まれている方も一度、市役所のホームページや広報を確認してみてください。一つの出来事、人との繋がりが、一歩前に進んでいくきっかけになるかもしれません。

執筆者：ソーシャルサポート川西 林本 真志

Associa Staff

高橋 徳之
所属：ホイスコーレ沖繩

健常者として21年、障がい者になって21年目のネオハーフ。大学3年時、事故で障がい者デビュー。人生初の車椅子生活はどうすれば『障がいを隠せるか』『障がい者に見えないか』ばかり考え、カモフラージュに奔走していました。社会に出る自信などあるはずもなく考え抜いた結果、大学で学んだ浅はかな経営学を基に飲食店を営むことにしました。この時、健常者時代より多くの人と出会いを重ね世界が広がり、障がいを負って良かったとは思えないが、事故後歩んできた中で出会った人、全員と出会えなかったと考えると『この人生でも悪くない』と思えるところまでできました。今後どんな困難が自分を打ちのめし、そしてどのように立ち上がるのかニヤニヤしている自分があります。



Editor's Note

振り向けばいつの間にか6回目を迎えていた本誌。「何かネタはない?」「イベントの予定は?」「表紙どうする!?!」とろろたえながら、弊社の各事業所やスタッフの中に眠るホットな想いを起こし、発信できればと本誌の編集をさせていただいています。この場をかりて、執筆協力をいただいているスタッフへの感謝と、本誌を読んでいただくすべての皆様に感謝申し上げます。また、次年度も「アソシアジャーナル」をよろしく願いいたします。

執筆者：広報 與那覇 滉矢

Associa
local network design

発行元：株式会社アソシア
法人本部：沖縄県中頭郡北谷町北前 1-10-8
TEL：098-926-5175 FAX：098-926-5176
MAIL：info@associa-lnd.co.jp
HP：https://associa-lnd.co.jp/

インスタグラムで情報配信中



ジョブ川西 ホイスコーレ神戸



EC サイト運営、さまざまな内職業務、「できなかったこと」が「できた」に変わる喜びを

できることから少しずつ、居心地の良いスペースで、楽しみながら仕事できる環境をご提供します。

アソシア・ファクトリー川西（就労継続支援 B 型）では、ネットを通じてモノやサービスの販売を行なっている EC サイトを運営している企業様から業務の一部を受託させていただき、ネット上で注文のあった商品の発送業務をメインに行なっています。多くの商品が保管されてある棚から該当の商品を探してピッキングしたり、商品の梱包作業や仕分作業をしたりするなど、大切なお客様の商品を扱う EC サイト運営の一旦を担っております。作業の種類によっては得意不得意が発生することもあります。まずは自分ができることや得意なことを中心に行なってもらい、仕事ができる感覚を掴んでもらいたいと思っています。また、内職作業では、商品の詰め替えや部品の組み立てなどを行なっています。細かい作業も多いですが、さまざまな種類の作業をみんなが楽しみながら行なっています。コツコツと作業することが好きな方は、内職作業でチカラを発揮することも多いです。

いくつかある作業の中から、わたしたちは利用者ご本人の「できなかったこと」「難しかったこと」が、作業方法や作業に用いる道具などを少し工夫することで「できた」に変わることを目標にしています。また、

不安や緊張などが強い方も、まずは自分のペースでできることを日々繰り返し、スモールステップで、少しずつ作業できることが増えたり、完成度を高めたりと、ご本人が前進できるよう、生活面を含めてサポートしています。複数人で作業していただくことも多く、自然と会話をする機会は多いです。そのため利用者さん同士で助け合いながら、楽しく作業する雰囲気もあります。また、「楽しく働くこと」を一緒に感じてもらおう。それをスタッフ間でも大切にしており、働くときは真剣に作業に取り組み、楽しむ時はとことん楽しむので、関西のノリツッコミが飛び交う明るい雰囲気がわたしたちの強みです。

月 1 回の開所日では電車ですら少し遠出をしたり、お昼ご飯をつくったりするなど、社会生活を送る上で必要なサポートも実施しています。社会スキル、生活能力をできるだけ楽しく訓練しながら、ご本人の目指す「次のステップ」への挑戦に向けて共に伴走しています。

利用してくださる方々ができるだけ居心地良く、そして楽しみを持って仕事し輝くことができる環境を提供しています。

執筆者：ファクトリー川西 小島 萌未

Column

人生を豊かにするかもしれない、みんなが持てるもの「推し」。その定義をもっと広くていいのではないかと思索しています



「推し」という言葉が市民権を得ていく中で、推しに貢ぐだけでなく、最近は「推しを摂取する」、「推しを増す」など「推し」に関する言葉が増えてきました。皆さんは、「推し」と聞いて何を連想するのでしょうか？ 多くの人、特に特定の推しのいない人はアイドルや俳優を思い浮かべたのではないのでしょうか。もちろんそのヲタクの皆さんを否定するわけではないのですがもっと広義な「推し活」をおススメしたいのです。

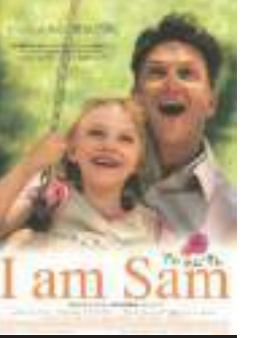
例えばお城であったり雑貨屋さんであったり、もっと身近なところというお子さんであったり。人に限らず、好きであったり、心震えるモノやコトであったり、場所でもいいので「推し」にしてみたいかでしょうか？ 「推し」を摂取すると、心の平穏が保たれたり、単純に仕事を頑張るきっかけになったりすると、弊社の推し活メンバーから聞いています。弊社の中の推し活メンバーの中には、「これが推し」と公言している人もいますが、心の中でひっそりと推すこともありだと思うので、「推し」を見つけて心が満たされる、充実した生活ができたなら仕事も役割も頑張れるのではないかと思います。皆さんが心の満たされる「推し」と出会うように願っています。あー、早くおいしいケーキを摂取したい。

執筆者：ソーシャルサポート川西 佐次田 海斗

Reccomend Movie 005

今回、注目したのはショーン・ベン演じる主人公のサムがスタバで働いている事です。2001 年制作となっているので、今からおよそ 22 年前。アメリカでは 1990 年に「障害を持つアメリカ人法（ADA 法）」が施行されましたが、実際には雇用は進んでいませんでした。そこで、98 年に大統領の命令により「成人障害者の就業に関する大統領タスクフォース」が設立。その後、アメリカにおける 18 歳から 64 歳の障害のある人々の就業率は、98 年の 29% から、2004 年には 35% と上昇。また、日本のジェネラリスト型雇用と異なり、アメリカでは一般的に採用の段階で組織の求めるスキルを明確に示した職務定義書が提示（ジョブ型雇用）されるので、コミュニケーションが苦手であっても、他に出来る作業などがあれば、それで雇用が成立するのも、障がいがある方の働きやすさに繋がっています。

執筆者：CEO 神谷 牧人



元利用者インタビュー～vol.1「私自身がもつ当事者性を、誇りに思えるようになりたい。」

アソシアの利用者として約 3 年間、福祉サービスを利用した経験を持つ彼女が、元利用者としてアソシアで働くこととなった心境や不安、スタッフとして大切にしていることについて語りました。

アソシアはどれくらい利用していましたか。
-Tさん：高校を卒業してすぐにアソシアの生活訓練を利用することになりました。1 年半ほど通った後にアソシアのカフェで就労移行支援を経て就労継続支援 A 型で勤務していました。トータルでは 3 年くらいアソシアの福祉サービスを利用していましたね。

アソシアに就職したきっかけは何でしょう。
-Tさん：自分がそろそろ就職しようと思っていたこと、それと同時に当時のスタッフさんなど周囲からの推薦もあり決めました。ただ自分が社会にでることに対してまだまだ不安はあったので、利用者として話していた心配事などを、他のスタッフさんに相談できるのか不安はありました。わたしは時間を計算して動くことも苦手だし、短期記憶が苦手なので、仕事の相談などができるのかと心配でした。ですがアソシアで働いて、普通とは違うから、と自分自身で勝手に不安を煽ってやりづらさを感じてしまっていたかもしれない、そう思うようになりました。周りも自分と同じようなミスをすることはあったし（笑）

就職が決まった時はどんな気持ちでしたか。
-Tさん：最初は自分が利用者の方と関わるなんて、という気持ちでした。ただ指導員として関わるようになってから、昔の自分と重ねることもあります。特に完璧を求めすぎる方を見ると、もっとリラックスして仕事に臨んでも良いと思ったり。それと、も

う少しスタッフさんに声をかけて欲しかったとか、自分からスタッフさんに声をかけるのを遠慮したりする気持ちはわかります。わたしが利用者だった時も、もう少しこうしてくれたら、とか本当は言いたかったけど言えなかったこともありました。なので、いま自分が関わっている皆さんには、自分が元利用者であることを伝えています。人それぞれ言い出せない理由や心の壁みたいなものは違うと思うんですが、なるべく気軽に話してもらえるようになってほしいので。そうした体験もあって、ピアサポートの研修にも興味湧き、参加してみました。

アソシアのスタッフとして、大切にしたいことは何ですか。

-Tさん：アソシアを利用してくださっている皆さんに、抱えている不安や悩みを理解し共感できると思ってくれる存在になりたいです。当事者であったことが、わたしの強みになればいいと思っています。先日、ある利用者さんからわたしに対し「アソシアに来るのが楽しくなりました。声をかけてくれるので安心できます。」との声があり、実際に出席数にも良い影響がありました。昔の自分だったら「こうして欲しかった」という視点で関わるようにしているので、ちょっとだけ、そうした気持ちを汲み取ることができたのかなと、純粋に嬉しかったです。

協力：ソーシャルトレーニング沖縄 T さん

